

Letter for Members

【コンテンツ】

- 4月12日は「補綴の日」1
- 支部学術大会報告2
- 令和2年度日本歯科医学会会長賞受賞のご報告7
- The 7th Biennial Joint Congress of CPS-JPS-KAP (日中韓合同補綴学会) 開催報告 8
- 1st Asian Academy of Prosthodontics Virtual Scientific Meeting報告 9
- 48th IPS National Virtual Conference 2020の報告10
- 認定医・専門医筆記試験の全国同時一斉開催12
- 補綴関連講座・分野新教授紹介14
- 学会HP, メルマガ, Letter for members, フェイスブックの紹介17

4月12日は「補綴の日」

4月12日は「補綴(ほてつ)の日」として一般社団法人日本記念日協会から正式に認定されています。4(フォー)10(テン)2(ツー)で「フォーテンツ」→「ホテツ」の語呂合わせです。

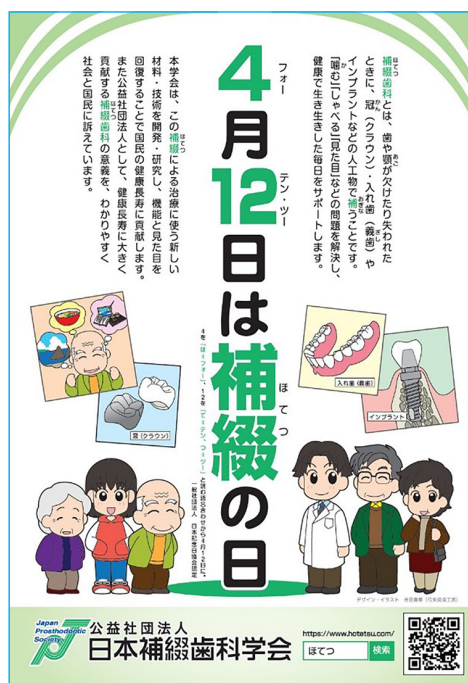
新型コロナの影響で本年は記念イベントなどができませんが、ポスターを作成しました。左が一般の方向けで、右が歯科医療関係者向けです。待合室に掲示す

るなどして患者さんへの啓発活動にご活用ください。学会ホームページ <https://www.hotetsu.com> からダウンロードできます。また、補綴を紹介したリーフレットもダウンロードできますので、ご活用ください。

理事長 大川周治
広報委員長 佐藤裕二



一般の方向けポスター



歯科医療関係者向けポスター

支部学術大会報告

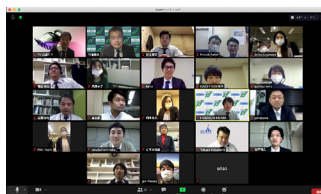
●東北・北海道支部学術大会

令和2年度東北・北海道支部総会・学術大会が令和2年11月1日(日)に岩手医科大学でweb開催されました。本年は、年明けより新型コロナウイルス(COVID-19)感染症の流行によって社会活動が大きく制限される年となり、支部学術大会においてもその煽りを受ける形でWebによるリモート開催で行うこととなりました。本会では2つの特別講演を主軸とし、一般演題はすべてe-poster形式とさせていただきます。特別講演1では、岩手医科大学の近藤尚知先生に「デジタルデンティストリー・アップデート」の演題で、近年のデジタルの近況を御講演いただきました。また、特別講演2では大阪大学名誉教授である矢谷博文先生に「審美補綴歯科材料の接着を科学する」の演題で、近年の多岐にわたる歯科材料に対する接着化学に関して御講演いただきました。また、学術大会と併設で10月31日に専門医ケースプレゼンテーションが対面形式で行われ、11月1日の学会終了後に生涯学習公開セミナーおよび専門医研修会が催されました。生涯学習セミナーでは、東北大学の佐々木啓一先生(How-to 咬合採得)および岩手医科大学の小林

琢也先生(健康寿命を延ばすため「食力(しょくりき)」を考える)のお二方に御講演いただき、専門医研修会では奥羽大学の山森徹雄先生(天然歯とインプラントの連結を再考する)および大阪大学の松田謙一先生(全部床義歯臨床 Brush up! ~過去の成書から読み解く多くの知見~)に御講演いただきました。Web開催となり通常よりも短い期間となりましたが、内容の濃い充実した会となりました。ご参加いただいた先生方およびご協力いただいた関係各所の方々にはこの場を借りて御礼申し上げます。(岩手医大 鬼原英道)

プログラム・抄録集

https://www.hotetsu.com/files/files_495.pdf



WEB開催された学術大会



対面で開催された専門医ケースプレゼンテーション会場

●関越支部学術大会

令和2年11月8日にOnlineにて日本歯科大学名誉教授、渡邊文彦大会長、日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第2講座准教授、上田一彦実行委員長、同講座助教、勝田康弘準備委員長のもと、「補綴治療を再考する」をメインテーマに令和2年度日本補綴歯科学会関越支部学術大会を専門医研修会と併催で開催いたしました。また学術大会終了後、生涯学習公開セミナーを日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第1講座教授、小出馨先生の座長のもとで開催致しました。130名の方が参加されました。当初の予定では新潟県歯科医師会との共催でon siteでの学術大会を開催予定でしたが、COVID-19が縮小しないためやむを得ずOnlineでの開催と致しました。

特別講演は、本多正明先生(関西支部)で「長期間の咬合安定をはかるには」をテーマに、また専門医研修会では「基礎・臨床・技工から再考するジルコニア固定性補綴装置」のテーマで西村好美先生(関西支部)と上田一彦先生(日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴第2講座)にご講演をいただきました。

学術大会終了後、同日に生涯学習公開セミナーを「健康寿命を延ばすため「食力」を考えるー補綴で行う機能検査ー」をテーマに津賀一弘先生(広島大学大学院医系科学研究科先端歯科補綴学教授)、山口泰彦先生(北海道大学大学院歯学研究科冠橋義歯補綴学教授)にご講演いただきました。

当日は多くの方にアクセスしていただき、Onlineでの利点を生かした学術大会となりました。

(大会長 渡邊文彦)

プログラム・抄録集

https://www.hotetsu.com/files/files_510.pdf

●東関東支部学術大会

令和3年2月7日(日)、日本大学松戸歯学部の小見山 道を大会長として、第19回千葉県歯科医学大会と共催にて令和2年度公益社団法人日本補綴歯科学会東関東支部総会・第24回学術大会が開催されました。令和3年1月8日に緊急事態宣言が再発出されたことにより、専門医ケースプレゼンテーション以外はWEB開催とする開催形式にて執り行われました。

本年度の東関東支部学術大会は、事前参加登録制とし、111名の事前参加登録をいただき、E-poster 8演題、専門医ケースプレゼンテーション10題が発表されました。同日に開催された専門医研修会では「有床義歯難症例への対応—咬合採得を中心に—」をテーマとして鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座の佐藤洋平先生から「パーシャルデンチャー難症例の攻略における咬合採得」の演題で、日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座の松丸悠一先生から「全部床義歯難症例に活かす咬合採得と咬合マネジメント」の演題でそれぞれご講演をいただきました。生涯学習公開セミナーでは、「デジタル化で求められる歯科医療のリテラシー」をテーマとして神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔統合医療学講座の星憲幸先生から「歯科医療の

未来とICT ～大学歯科医師の観点から～」の演題で、パシヤデンタルラボラトリーの枝川智之先生から「デジタルコミュニケーションと新しいマテリアルの活用法」の演題で、船井総合研究所の岡崎晃平先生から「歯科クリニックにおけるICT/デジタル化の活用事例」の演題で、それぞれご講演をいただきました。

千葉県歯科医師会、東関東支部の先生方ならびにご発表いただいた先生方のご協力に感謝申し上げます。

(日大松戸 小見山 道)

プログラム・抄録集

https://www.hotetsu.com/files/files_515.pdf



専門医ケースプレゼンテーション



専門医研修会の動画配信

●東京支部学術大会

令和2年度東京支部総会・第24回学術大会が、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科部分床義歯補綴学分野主催により、令和2年11月29日(日)に東京医科歯科大学において開催されました。

一般口演16題はWeb開催、専門医ケースプレゼンテーション6題は対面形式で行われました。学術大会後の生涯学習公開セミナー(Web開催)では、東京医科歯科大学摂食嚥下リハビリテーション学分野、戸原 玄先生より「摂食嚥下障害の評価と訓練の実際」というテーマで、同分野の原 豪志先生より「歯科で行うオンライン診療の可能性」というテーマでご講演いただき、座長の古屋純一先生による進行のもと、活発な議論がなされました。

続いて同じくWeb開催で行われた専門医研修会では、「歯科再生医療の現状と展望」をメインテーマとして、東京医科歯科大学歯周病学分野の岩田隆紀先生より「歯周組織再生の現状と展望」というテーマで、東京医科歯科大学インプラント・口腔再生医学分野の黒田真司先生より「歯科領域における骨再生の可能性と欠損補綴」というテーマで、最新の研究成果を交えながらご講演をいただきました。

講演後には、オンラインにて会員間の情報交換や親睦を深める懇親会が行われました。

今回の学術大会では377名の方々にご参加いただき、盛況のうちに会を終えることができました。ご支援を賜りました関係各位にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。(医歯大 若林則幸, 上野剛史)

プログラム・抄録集

https://www.hotetsu.com/files/files_514.pdf

●西関東支部学術大会

令和2年(2020年)11月15日(日)、神奈川歯科大学附属横浜研修センター(神奈川県横浜市)において、大会長玉置勝司(神奈川歯科大学口腔統合医療学講座)、準備委員長岩下英夫(同大学附属横浜クリニック)、藤原基(同大学口腔統合医療学講座)で開催されました。メインテーマは「健康寿命を延ばすため「食力」を考える」で、一般演題(eポスター、Web)12題、専門医申請ケースプレゼンテーション(ポスタープレゼンテーション、対面)3題が発表され、その内容は本学会の発展と国民の健康に大きく寄与する内容でした。

生涯学習公開セミナー(Web)は、「健康寿命を延ばすため「食力」を考えるー補綴装置(機能歯数)の意義ー」をテーマに、座長:鈴木恭典先生(鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座)、講師:前川賢治先生(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科)「生命予後、健康寿命の延伸に寄与する補綴歯科治療ー草津研究を基盤とした機能歯数の観点からー」、講師:武内博朗先生(医療法人社団武内歯科医院)「咀嚼機能回復と保健指導の組み合わせは、体組成と代謝指標を改善するー補綴治療は、オーラルフレイルの発症予防・重症化予防

になるー」について、非常に分かり易くご発表いただき、視聴者からの活発な質疑応答も行われました(アクセス数119名)。

また、支部専門医研修会(Web)では、「補綴専門医としての咬合再構築に考慮すべき咬合の基本」をテーマに、木本克彦先生(神奈川歯科大学口腔統合医療学講座)の座長の下、山口泰彦先生(北海道大学大学院歯学研究院口腔機能学分野)には「咬合異常の多様性を考慮した咬合治療」、玉置勝司先生(神奈川歯科大学口腔統合医療学講座)には「咬合の基本の再考ー中心位、顎関節、咬合違和感ー」と題した講演をお願いし、多くの専門医の先生方が興味深く聴講されました(アクセス数133名)。(神歯大 玉置勝司)

プログラム・抄録集

https://www.hotetsu.com/files/files_499.pdf



神奈川歯科大学附属横浜研修センター (7F)



専門医申請ケースプレゼンテーション

●東海支部学術大会

令和2年度東海支部総会・学術大会が、朝日大学歯学部口腔機能修復学講座歯科補綴学分野の石神元を大会長として、令和2年11月15日(日)に開催されました。当初は通常開催を予定していましたが、COVID-19対策として一般演題は誌上開催、生涯学習公開セミナーと専門医研修会はWeb配信とさせていただきます。

生涯学習公開セミナーは、「健康寿命延伸のための食力向上 我々歯科医がどうかかわるべきか」をテーマとして、谷口裕重先生に『健康寿命の延伸をめざしてー「口腔健康管理」「摂食嚥下リハビリテーション」の新知見ー』と題し、窪木拓男先生には『ライフステージに合わせた補綴歯科治療の役割ー介護予防、フレイル予防から、要介護高齢者の支援までー』と題してご講演いただきました。

専門医研修会は、新しく保険に収められたチタンに着目し、「チタンを再考するー基礎の立場から・臨床の立場からー」をテーマとして、玉置幸道先生には『チタン鑄造はなぜ難しいのか?』、黒岩昭弘先生には『チタン鑄造に関する研究ー32年の回顧録とこれからの臨床応用ー』と題してご講演いただきました。

誌上開催とさせていただいた一般演題は7題で、参加演題数はやはり少ない傾向となりました。また、昨年度から計画しておりました西関東支部との共催もやむなく中止し、次年度以降の宿題とさせていただきます。

新たな様式での学会開催で運営にも不慣れな点が多々あり、多くの先生方にご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げますとともに、関係各位にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

(朝日大 石神 元)

プログラム・抄録集

https://www.hotetsu.com/files/files_507.pdf

ライフステージに合わせた補綴歯科治療の役割
ー介護予防、フレイル予防から、要介護高齢者の支援までー

日本補綴歯科学会東海支部学術大会 生涯学習公開セミナー
「健康寿命延伸のための食力向上 我々歯科医がどうかかわるべきか」

岡山大学病院
デンタルインプラントセンター
岡山大学大学院
医歯薬学総合研究科
インプラント
再建科学分野
窪木 拓男

岡山大学病院デンタルインプラントセンター
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
インプラント再建科学分野
窪木 拓男

日本補綴歯科学会 東海支部学術大会 201115

生涯学習公開セミナー

朝日大学 2020/11/15

2020年度日本補綴歯科学会
東海支部専門医研修会 in Gifu

チタンを再考する
ー基礎の立場から・臨床の対峙からー
“チタン鑄造はなぜ難しいのか?”

朝日大学歯学部口腔機能修復学講座
歯理工学分野 玉置幸道

専門医研修会

●関西支部学術大会

令和3年3月7日(日)令和2年度日本補綴歯科学会関西支部学術大会をWEBにて開催しました。本来、昨年11月29日に奈良県歯科医師会と共催を得て通常形式にて開催予定でしたが、COVID-19再度の感染拡大を受け、専門医ケースプレゼンテーションのみ予定通り行い、学術大会・総会等は直前に中止という前代未聞の結果となりました。その後再企画し、今回の開催に至りました。

未だコロナ禍の感染拡大が危惧される中での開催となりましたが、一般発表12題をe-ポスターで行うとともに、日程を調整して、学術大会に併催される生涯学習公開セミナーと専門医研修会を同日にlive配信にて開催いたしました。

当日の午前中に開催した専門医研修会では、「睡眠を科学する」と題し、田中順子先生(大阪歯科大学)を座長として、奥野健太郎先生(大阪歯科大学)には睡眠時無呼吸に対する口腔内装置について、山口泰彦先生には睡眠時筋電図検査結果に基づいたブラキシズムへの対応についてご講演をいただきました。次いで、今回、特別企画として、昨年急逝されました田中昌博先生を偲んで、御後任の柏木宏介先生により故田中昌

博先生の長年にわたるご業績と講座の今後の取り組みについてご披露されました。

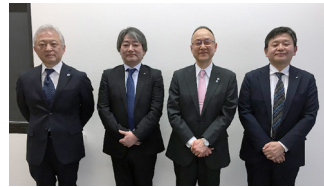
午後に開催した生涯学習公開セミナーでは、補綴学会の大目標である「健康寿命を延ばすための「食力」を考える」をテーマに、糸田昌隆先生(大阪歯科大学)を座長として、池邊一典先生(大阪大学)には口腔機能と栄養・健康との関係について、高橋一也先生(大阪歯科大学)には口腔リハビリテーションと補綴治療についてご講演をいただきました。

今回は事前登録制としましたが200名を超える参加登録を得て、配信に不備な点もありましたが、有意義な時間を共有することが出来ました。

(関西支部 佐古好正)

プログラム・抄録集

https://www.hotetsu.com/files/files_526.pdf



生涯学習公開セミナーの講師と大会長



講演会場でのWEB配信風景

●中国・四国支部学術大会

令和2年8月29日(土)と30日(日)の2日間、東広島芸術文化ホールくらら(東広島市)において、里見圭一大会長(中国・四国支部)のもと、令和2年度公益社団法人日本補綴歯科学会中国・四国支部学術大会が開催され、一般演題6題、専門医ケースプレゼンテーション5題が発表されました。併催された生涯学習公開セミナーでは「健康寿命を延ばすための食力(しょくりき)を考える」をテーマに、岡山大学、皆木省吾先生、広島大学、吉田光由先生よりご講演をいただきました。専門医研修会では「デジタルデンティストリーの今日と明日」をテーマに、岡山大学、窪木拓男先生、広島大学、安部倉仁先生よりご講演をいただきました。

当初、現地開催を予定しておりましたがCOVID-19

感染症の社会情勢を踏まえ参加者の安全対策を考慮し、現地ならびWEBによるハイブリッド開催方式を1カ月前に決定することとなりました。そのため、市民フォーラムの中止、ポスター発表の一般口演への振替、会場収容定員の半数の規制、会場内でのマスク着用などの対応をいたしました。情勢が変化中、演者、発表者ならび参加者の先生方へはご心配ご迷惑おかけすることとなりましたが、約210名の先生方に御参加いただき(内現地参加約30名)、開催後の感染等の報告もなく無事終えることができました。ご参加いただいた先生方へ厚くお礼申し上げます。

(広島大 土井一矢)

プログラム・抄録集

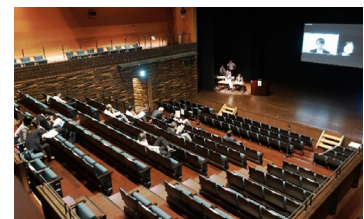
https://www.hotetsu.com/files/files_462.pdf



大会長 里見圭一先生、実行委員長 津賀一弘先生



生涯学習公開セミナー質疑応答の様子



一般口演の様子(遠隔地からの発表)

●九州支部学術大会

令和2年11月29日(日)に令和2年度九州支部学術大会が開催されました。当初は福岡県久留米市での開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響のため、Webでのライブ配信となりました。Web開催としたことで九州支部以外の先生方や非会員の先生方にも多数ご登録いただき、250名を超える先生方に参加いただきました。

専門医ケースプレゼンテーション3題が行われ、一般演題は20題すべてeポスターにて行われました。基礎研究・臨床研究など幅広い分野から演題をいただき、登録者は会期中はいつでもポスターを閲覧できるため大変な便利だという評価をいただきました。

専門医教育講演は、東京医科歯科大学の金澤学先生と鶴見大学の佐藤洋平先生に「総義歯臨床の一工夫」というテーマでご講演いただきました。明日からの総義歯臨床に役立つ分かりやすいご講演で、若手からベテランのまで多くの先生にご好評をいただきました。

生涯学習公開セミナーでは「健康寿命を伸ばすため「食力」を考える」というテーマで九州支部の永田省藏先生、東京支部の谷田部優先生にご講演いただきました。先生方の長期症例を多数お示しいただき、超高

齢社会における欠損歯列症例への対応、いかに安定した補綴装置を提供していくか、臨床を行ううえでの注意事項や勘所について分かりやすく解説いただきました。

初めての支部学術大会のオンライン開催でしたが、皆様のご協力・ご理解のもと盛況のうちに会を終えることができました。この場を借りて関係各位に感謝申し上げます。(九州大 高橋 良)

プログラム・抄録集

https://www.hotetsu.com/files/files_494.pdf

令和2年度日本歯科医学会会長賞受賞のご報告

九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座
古谷野 潔

このたび、日本歯科医学会会長賞を受賞いたしましたのでご報告いたします。日本歯科医学会会長賞は歯科関係では最高の顕彰とのことで、このような素晴らしい賞を受賞できましたことは大変名誉なことと存じています。今回の受賞は公益社団法人日本補綴歯科学会（JPS）のご推薦に基づくものです。推薦していただいた大川理事長を始め執行部の先生方、ならびに市川前理事長に心より感謝申し上げます。

本賞の授賞式は例年ですと、日本歯科医師会館で開催される日本歯科医学会の定例評議員会の中で開催され、会長と受賞者全員での記念写真の撮影があります。しかし、今年度の授賞式は、新型コロナウイルスの影響によりオンラインの形で、令和3年2月19日に行われました。そのため集合記念写真はなく、受賞者が個別に写真を取り、それを日本歯科医学会事務局が集めてレイアウトしたうえで日本歯科医学会誌に掲載することによって、この報告に添える写真がありませんことについてご容赦いただけますと幸いです。

日本歯科医学会会長賞には、研究部門、教育部門、地域歯科医療部門の3つの受賞部門があり、私は研究部門で受賞させていただきました。今回、私以外で受賞されましたのは、研究部門では今井 裕先生（獨協医大名誉教授・特任教授）、村上伸也先生（大阪大学大学院歯学研究科教授）、教育部門では井上 孝先生（東京歯科大学特任教授・名誉教授）、嶋田昌彦先生（東京医科歯科大学名誉教授）、関本恒夫先生（日本歯科大学名誉教授）、地域歯科医療部門では丸山進一郎先生（埼玉県歯科医師会会員）の6名でした。

JPSからの推薦に基づいて本賞を受賞するのは、敬愛する矢谷博文先生が昨年度受賞されたのに続き2年連続となります。今回、私を受賞できましたのは、ひとえにJPSの推薦によるものと認識しております。昨今、JPSの研究活動が活発に行われ素晴らしい成果を上げていることが、広く歯科界に認識されているこ

とが大きな力になったのだと思っております。その意味で日頃より活発に活動されている本会会員の皆様に感謝申し上げる次第です。

これまでにJPSの推薦に基づいて日本歯科医学会会長賞を受賞されたのは、平沼謙二先生、藍 稔先生、山下 敦先生、大山喬史先生、野首孝嗣先生、細井紀雄先生、川添堯彬先生、福島俊士先生、平井敏博先生、赤川安正先生、矢谷博文先生の11名と聞き及んでおります。これらの偉大な先達の末尾に私の名前がつくことは大変光栄なことであり、名誉なことであると認識しております。

私は令和3年3月末で九州大学を定年退職いたしますが、今後もこのたびの受賞を糧に、歯科補綴学の発展に貢献できるよう尽力して参りたいと考えております。最後になりましたが、日本補綴歯科学会のますますのご発展をお祈りし、受賞のご挨拶といたします。ありがとうございました。



The 7th Biennial Joint Congress of CPS-JPS-KAP (日中韓合同補綴学会)開催報告

この度は第7回日中韓合同補綴学会に多数の会員の参加を賜り、誠に有り難うございました。大会長として心より感謝申し上げます。

本学会は、当初2021年2月19～21日に沖縄科学技術大学院大学(OIST)のカンファレンス・センターでの開催予定で進めておりました。美ら海水族館へのオプションツアーの後、万国津梁館において懇親会を行う企画もできあがっておりましたが、憎きCOVID-19によってこの企画は脆くも消え去りました。すでに3カ国の座長やオーラルセッションのプレゼンターも決定している段階での現地開催中止となり、WEB開催に切り替えようと思いましたが、中国がzoom環境を整備できないとのことで、オーラルプレゼンターは音声付きスライド、ポスターはe-ポスター、座長とプレゼンター間の質疑応答は個人間メールで対応することとなりました。会期中の3カ国間のビジネスミーティングもメール会議となりました。最終的に2021年2月19日～27日にオンラインで開催されました。

大会テーマは、“Current Status and Future Prospective of Prosthetic Dentistry”とし、実行委

員長の細川隆司先生、準備委員長の槇原絵理先生と協力しながら何とか無事に終わることができました。

プログラムは、材料と基礎、インプラントと固定性補綴、老年歯科と可撤性補綴、デジタル歯科の4つのカテゴリーに区分され、口頭発表では、各カテゴリーに3学会から1名ずつ計12名の演者が講演されました。また、「デジタル歯科の現状と将来」と「老年歯科の現状と将来」の2つのシンポジウムを行いました。ポスター発表は、カテゴリー1(18)、カテゴリー2(11)、カテゴリー3(9)、カテゴリー4(11)の49演題でした。

192名の参加登録があり、その内訳は、112名が日本補綴歯科学会会員、20名が中国補綴歯科学会会員、41名が韓国歯科補綴学会会員、19名が非会員でした。非会員のうち10名が中国から、4名がベトナムから、2名がミャンマーから、2名が日本から、1名がインドからの参加でした。

最後に、大川周治理事長、津賀一弘国際渉外委員長はじめご協力いただきました関係各位に衷心より御礼申し上げます。

(大会長 鱒見進一)

Welcome message



Shuji Ohkawa, DDS, PhD

President
Japan Prosthodontic Society

Dear Colleagues,

On behalf of the Japan Prosthodontic Society (JPS), it is my great pleasure to have the opportunity to invite you to the 7th Biennial Joint Congress of JPS, the Chinese Prosthodontic Society (CPS), and the Korean Academy of Prosthodontics (KAP), which will be held in Japan from February 19-27, 2021.

We are very sorry, but due to the influence of covid-19, this conference will be held Online.

Under the main theme of this congress Current Status and Future Prospective of Prosthetic Dentistry—we will have symposiums as well as oral and poster presentations. It is a great opportunity, especially for young prosthodontists, to present their achievements. I hope more participants will attend this Online Congress.

I would like to give special thanks to Congress President Professor Masumi for preparing and organizing the congress. We will have a great time with the congress.

I believe that we can continue to keep good relationships between Japan (JPS), China (CPS) and Korea (KAP), overcoming global and historical difficulties.

Let's enjoy the conference!

7th Biennial Joint Congress of JPS-CPS-KAP

“Current Status and Future Prospective of Prosthetic Dentistry”



WEBSITE: Online (<https://bjc2021.com>)

DATE: February 19th – 27th, 2021.

Sponsored by Japan Prosthodontic Society
President Shuji Ohkawa, DDS, PhD

1st Asian Academy of Prosthodontics Virtual Scientific Meeting報告

2020年10月31日にAAPとしては、初めてのvirtual scientific meeting (Zoom Webinarによるオンラインセミナー) が開催され、本学会からAAPの役員として参加させていただきましたのでご報告致します。

開会の挨拶の後、演者一人あたり50分発表、10分ディスカッションのフォーマットでプログラムが構成されていました。演者は以下の皆さんでした。

- Dr. Kwantae Noh (South Korea)
- Dr. Alex Yunn-Jy Chen (Taiwan)
- Dr. Kelvin Khng (Singapore)
- Dr. Sushil Koirala (Nepal)
- Dr. Chris Butterworth (England, UK)

セミナー途中で各国代表から挨拶があり、私もご挨拶させていただきました。終了後に開催担当者から報告があり、ログイン記録からアジアを中心に27カ国から1,000名を超える参加者があったということでした。参加費が無料であったこともあり、初めての試みとしては成功であったように思われます。

AAPは、ICPAC (ICPのアジア支部) として日本を中心に発足し、その後AAPとして独立、改組され、現在はアジア諸国の補綴学会が連携して運営されており、これまで、ほぼ2年毎に学術大会が開催されてきました。2020年は、インドネシアのバリにて開催予定でしたが、COVID-19のパンデミックで中止となり、

1年程度延期となりました。そこで、このコロナ禍の中で何かできないか? ということで、新たな取り組みとしてこのオンラインセミナーの企画が突然、インドネシアやマレーシアの役員を中心に持ち上がり、極めて短期間でこのようなプログラムが構築され告知されました。会員の皆様には、国際渉外委員会を通じてほぼ10日前(10月20日)の急なお知らせとなり、既に予定を入れていて参加が困難であった先生も少なかつたのではないかと拝察致します。アジア的には、これが普通の動き方かもしれませんが、日本人的には、AAP役員会の意思決定の速さ(多くの国の補綴学会代表者は全権限を持っており、自国の学会に持ち帰って理事会等に諮ることなくその場ですべてを決定できます)とタイムライン設定の短さには、いつも悩まされています。日本は、AAP参加国中、最大の会員数を誇っていますが、国連と同じく、役員会では1国1票ですので、声を大きく主張していないと、日本の流儀で物事を進めることはできません。ただ、今後、アジア諸国との連携は非常に重要とも考えており、会員の皆様のご意見を伺いつつ、国際渉外委員会を通じてAAPと有意義な連携を図っていきたいと考えております。今後とも、AAPの活動にご注目いただければ幸いです。

(AAP Councilor 細川隆司)



AAP Virtual Scientific Meeting の e-Poster



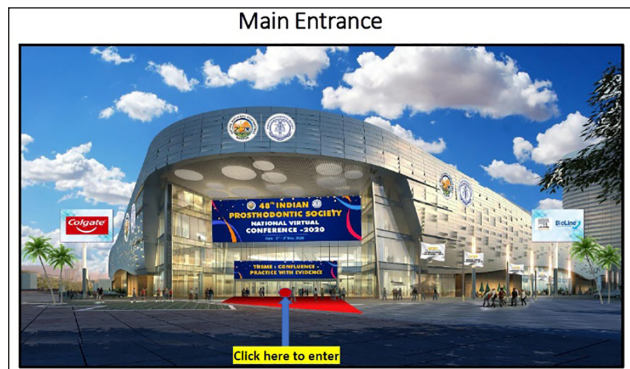
Roll Call のスクリーンショット

48th IPS National Virtual Conference 2020の報告

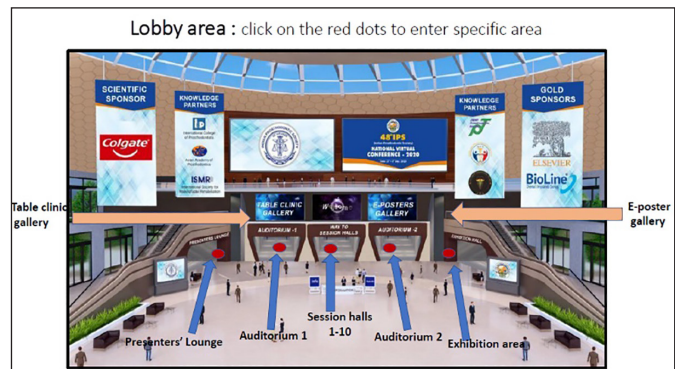
インド補綴歯科学会第 48 回学術大会は、コロナ禍のため、48th IPS National Virtual Conference 2020 として 2020 年 12 月 3～6 日、Web 上で開催されました。参加された会員の方々からは、「IT 大国らしく Web サイトは実際のカンファレンスセンターのようなバーチャル空間が作られており、その中に、いくつかのバーチャルホールが設定されていて、「実際の会議場にいるような雰囲気の中で講義を拝聴できまし

た」(医歯大 金澤 学先生), 「オンラインシステム自体が素晴らしかった」(東北大 江草 宏先生) などの評価をいただき、with コロナ時代の学術大会の参考として多くの情報が得られたのではないかと思います。以下、推薦演者としてご講演いただいた構 義徳先生と高岡亮太先生のご報告です。

(広島大 津賀一弘)



Web サイトのログインページ



Virtual Conference と呼ぶにふさわしいデザインで希望のセッションへ Go !

2020 年 12 月 3～6 日に開催されたインド補綴歯科学会 (IPS) 48th IPS National Virtual Conference で高岡先生と共に発表する機会をいただきました。毎回、代表者は、現地に行って発表されているのですが、今回は、コロナ禍という状況でしたので完全 web の形式で行われました。WhatsApp というアプリを使い、事務の先生とコンタクトを取りながら事前リハーサルまでは意外にスムーズに進みましたが、当日発表 30 分前にオンラインに繋ぎ待機していたら、前のセッションがまさかの 30 分遅延となり、結局 1 時間画面の前で待っての講演となりました。講演時間も 50 分講演、10 分質疑応答でしたので、慣れない英語での講演やウェブ形式も重なり、講演後はぐったりでした。初のバーチャルカンファレンスでしたが、今後はこのような形式になるのかなと思ったぐらい違和感は

ほとんどありませんでした。このような貴重な機会をいただき心より感謝いたします。

(六本木カマエデンタルオフィス 構 義徳)

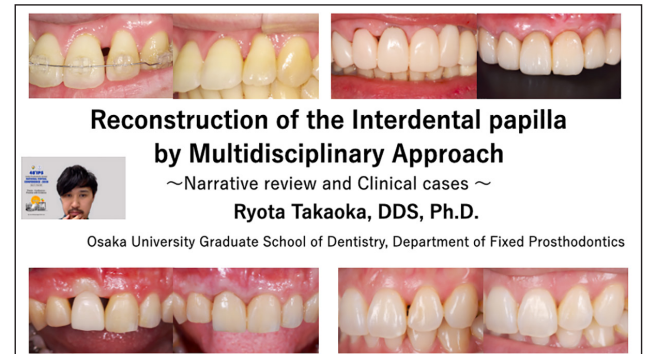


昨年の12月にインド補綴学会の国際バーチャル会議において guest speaker として参加させていただきました。インドはデジタル技術が進んでおり、学会のホームページでは学会会場の臨場感がうまく再現されていました。私の発表タイトルは“Reconstruction of interdental papilla”で、Esthetic Dentistryの部門にて発表させていただきました。

後に伺った話では聴衆は1,200名もいたとのことでしたが、オンライン会議のため幸い聴衆のプレッシャーを感じずに無事発表を終えることができました。また幸運にもインドの友人である Dr. Gopi Chander が私の発表の座長だったこともあり、国際学会と思えぬ和やかな雰囲気での発表となりました。由緒ある国際学会において、英語で1時間もお話しするというとても貴重な経験をさせていただき、日本補綴歯科学会関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

本発表を機に、現地の Dr と連絡を取り合う関係を築くこともでき、私のキャリアにとって本当に意義のある学会発表となりました。まだまだ未熟ですが、これからも研鑽を続け、日本補綴歯科学会に貢献できる歯科医師を目指したいと思います。

(大阪大 高岡亮太)



認定医・専門医筆記試験の全国同時一斉開催

新型コロナウイルス感染拡大に伴い第 129 回学術大会が Web 開催に移行しました。そのため、令和 2 年度の認定医・専門医試験の実施計画を新たに立ち上げることとなり、大川周治理事長の指示のもと理事会で検討し、9 支部に分散した形態で実施ができないかの提案を受け、修練医・認定医・専門医制度委員会で実施方法の検討を開始しました。

検討にあたり、最初に行うべき事項は 9 支部の日程調整でした。当初調整は困難かと思われましたが、各支部の協力もあり、2020 年 12 月 13 日という日程が早々に定まりました。次に検討すべきは、当日までの詳細な運営スキームと実施方法の構築です。全 22 会場で同日に一斉スタートの試験となるため、各会場で受験者が同一の条件で受験でき、会場間で基準化されることが優先課題です。その解決には、後にも先にも「試験実施要項」の作成が重要と考え、センター試験や本学の共通試験など、複数会場での試験対応の経験をもとに実施要項の作成に取り掛かりました。

しかし、実施要項を作成すると、細かな課題が浮かび上がるものです。その一つに、22 会場への試験問題の配布、実施後の回収がありました。ここについては事務局および問題作成業者などのご協力をいただき、セキュリティが担保された業者への委託が可能であることがわかり、手配を進めました。また、試験会場の確保は、各支部に大学の教室を確保いただきましたが、感染が拡大している都市部では、会場への入場が厳しく制限されている大学もあり、会場責任者の先生には大変なご面倒とご苦勞をおかけいたしました。また、同一会場で複数の講座員や勤務されている会員が受験するため、公平性を担保するために、試験監督を複数講座の指導医の先生にお務めいただきました。

師走の日曜日にもかかわらず試験監督をお務めいただきましたこと、誌面をお借りして改めて御礼申し上げます。この試験監督の問題につきましては今後、最も改善を考慮すべき点と考えております。

試験当日は、不測の事態に備えるため日曜日ではありますが事務局を開設し、委員長と事務局が控えました。12:20 に各会場で受付が開始され、13 時に試験開始。試験開始後は特段の問題もなく静かな時が流れ、試験終了時刻の 13 時 50 分に各会場から終了報告の電話が続々かかり始め、全会場終了の報告を持ち無事を終えることができました。

おかげさまで、受験者は過去最多の 280 名となりました。この要因は専門医を目指しながら、学術大会との日程の折り合いや地理的条件でアクセスが難しかった会員の受験機会が掘り起こされたのではないかと推察しています。実施後、全会場責任者の先生から実施に関わるアンケートをいただきましたところ、概ねスムーズに進行し、大きなトラブルがなかったとのご回答を受け、胸を撫で下ろしたところです。一方で、アンケートに基づきいくつかの改善点もいただきましたので、今後の改善へつなげるとする予定です。

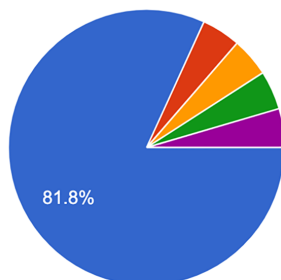
筆者個人の所感ですが、新型コロナウイルスの終息の如何にかかわらず、今回の開催形態は新たな在り方の一つとして価値があるのではと感じております。令和 3 年度も、すでに学術大会時の併催が中止となりました。再度、支部長の先生へ同様のお願いを申し上げることになろうかと存じます。引き続きご理解を賜り、補綴歯科学会の認定医・専門医制度の充実にお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

(修練医・認定医・専門医制度委員会委員長

河相安彦)

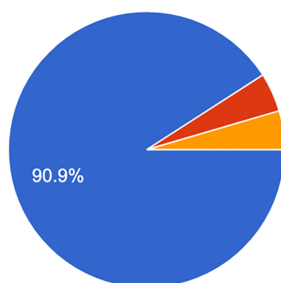
実施後アンケート

事前準備について問題がありましたか？ご意見ある場合は「その他」を選択し、些細なことでも結構ですでお答えください



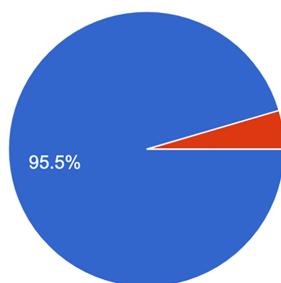
- いいえ
- 日曜日で暖房がない、器具を別途準備した
- 試験問題の受け取りの時間が指定できなかったため、結局秘書がずっと動けずに対応してました。結局直接ではなく、事務に届いていたので、そこまで手渡しで厳密でなかったのならその旨通達願いたかったです。
- コロナ禍で、本学では外部団体への施設貸し出しを禁じています。本学関係者のみの受験との理由で、試験会場が確保できました。
- 実施マニュアルの配布が若干遅いと思います。

当日の準備について問題がありましたか？ご意見ある場合は「その他」を選択し、些細なことでも結構ですでお答えください



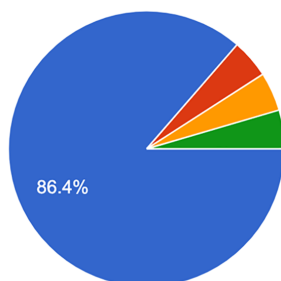
- いいえ
- 本学関係者、それも補綴学講座の教職員だけの受験でしたので、試験日程をマニュアル通りに行くと、試験場入場から試験開始まで大分時間が空きました。
- 座席に貼る座席番号を送付していただくと準備しやすかったと思います。

COVID-19対策について問題がありましたか？ご意見ある場合は「その他」を選択し、些細なことでも結構ですでお答えください



- いいえ
- 試験中、換気をすることで室温のコントロールが難しかった。冬季、夏季などエアコンが必要な季節の実施は座席による受験生の平等性の担保は難しいと思います。

試験問題の受け取りと返送について何か問題がありましたか？ご意見ある場合は「その他」を選択し、些細なことでも結構ですでお答えください



- いいえ
- 時間指定ができるとありがたい。
- 試験問題の受け取りと返送業者の時間指定が出来なかったこと。
- 時間がわからないので、研究室に必ず誰が残っていないなければならない。

補綴関連講座・分野新教授紹介

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科



戸原 玄

医歯学系専攻老化制御学講座摂食嚥下リハビリテーション学分野
2020年4月1日就任

昨年度教授に就任させていただきました。摂食嚥下は分野自体も新しいところですので、これからさらに新しくそして実際に役に立つものや仕組みを作りたいと考えております。さて、摂食嚥下リハの対象の患者さんは小児から高齢の方までおられます。純粋な欠損補綴のみで対応が可能な方は多くなく、むしろ義歯を外した方が飲み込みやすい方、義歯床の口蓋を厚くすることで飲み込みやすくなる方など、やや通常とは違った対応が必要になる方が多くおられます。

また、リハビリは筋力トレーニングのことで想像されることが多いのですが、この言葉はもう一度できるようにする、もう一度人間らしい生活を取り戻すという、より幅広いものです。昔は協会から破門された人が再び復帰するという身分や地位の回復を意味していました。より近代では、政治家の政界復帰など名誉回復や復権などを表し、その後戦争で負傷した兵士の回復を指す言葉となって医学的な意味合いを持ちました。

ですので、治らない機能や形態があっても、工夫してできるようにすればよいのです。また、どうしてもできるようにならない場合には、もう一度社会に戻れる方策を考えればよいのです。重度の障害をもつ方もたくさんおられます。そういった方々が楽しく生きていけるための知見をたくさん作って、あっただけで気持ち前向きになるような明るい医局員を育てていきますので、今後ともなにとぞよろしくお願いいたします。

東京歯科大学



関根秀志

クラウンブリッジ補綴学講座
2020年4月1日就任

東京歯科大学クラウンブリッジ補綴学講座は、大正12年に矢崎正方教授が開かれました「歯科補綴学教室」を礎といたします。昭和33年に北村勝衛教授のもとに「歯科補綴学第二講座」が開設され、その後、羽賀通夫先生、腰原好先生、佐藤亨先生と引き継がれる中、平成18年に大学の組織改革により、歯科補綴第二講座は「クラウンブリッジ補綴学講座」と名称があらためられ、現在に至っております。佐藤亨教授のご定年退職に際しまして、令和2年4月1日より講座を引き継がせていただき、現在、教授1名、准教授1名、講師1名、助教4名、レジデント2名、臨床専門専修科生3名、大学院生5名という布陣で、教育・研究・診療に従事しております。

着任早々、一週間でCOVID-19感染による非常事態宣言が発令され、病院は休日診療体制、オンラインでの学生教育・指導となりました。後期からは概ね対面での授業、実習に戻りましたが、まだしばらく感染予防に最大限の配慮をしながらの生活となりそうです。

クラウンブリッジ補綴学講座では、これまで補綴治療の臨床術式や補綴装置の製作過程に関連する研究を中心に、歯科理工学、解剖学、生理学などの基礎的研究、咬合及び顎機能、さらに審美歯学、接着歯学、インプラント関連など広範な領域で活動しております。

今後、これまで以上に歯科補綴学についての取り組みを強化し、補綴専門医の育成に努めてまいりたく考えております。ご関係の先生方にはこれまで以上のご指導とご鞭撻を頂戴いたしたく、なにとぞよろしくお願いいたします。

奥羽大学歯学部



羽鳥弘毅

歯科補綴学講座冠橋義歯学
2020年4月1日就任

令和2年4月1日付けで、奥羽大学歯学部歯科補綴学講座冠橋義歯学の教授を拝命しました羽鳥弘毅と申します。本紙面をお借りして、日本補綴歯科学会会員の皆様にご挨拶申し上げます。

1997年に私は東北大学を卒業し、鹿沼晶夫先生（東北大学名誉教授）にご指導いただき歯科研修医として補綴臨床の基礎を学びました。その後大学院へ進学し、佐々木啓一先生（日本補綴歯科学会第33代理事長）にご指導いただき研究に対する姿勢と補綴臨床の応用を学びました。2010年8月から2012年9月にはルーベン・カトリック大学（ベルギー王国）への留学の機会を与えていただき、Ignace Naert先生の下で骨粗鬆症におけるインプラント周囲骨代謝に関する基礎研究に従事しました。2016年8月に松本歯科大学歯科補綴学講座へ異動となり、奥羽大学は3校目の赴任地となります。

着任早々新型コロナウイルス感染症により、緊急事態宣言が発令されましたが、本学では学生および教職員の体調管理に配慮しつつ対面講義・実習の実施に注力し教育に対する熱意を絶やさぬよう努めて参りました。感染症の終息と自然災害からの復興を心より願うばかりです。

浅学の身ではございますが、奥羽大学の発展のため、教育、臨床および研究に一層精励いたす所存でございますので、今後とも何とぞ倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら日本補綴歯科学会のますますのご発展ならびに会員皆様のご健康とご多幸を祈念して、就任の挨拶とさせていただきます。

松本歯科大学



樋口大輔

歯科補綴学講座
2020年9月1日就任

この度、松本歯科大学歯科補綴学講座主任教授を拝命致しました樋口大輔でございます。まずはこれまでご指導をいただきました昭和大学歯科補綴学講座の馬場一美先生に厚く御礼申し上げます。そして着任後から温かいご指導、ご支援をいただいております東海支部長の石神元先生に感謝申し上げます。

さて、現在の松本歯科大学歯科補綴学講座はクラウンブリッジ補綴学、部分床義歯補綴学、全部床義歯補綴学、インプラント学そしてこれらの外来診療までを担当しております。2008年に竣工した松本歯科大学病院は個室からなる専門特別外来やインプラント専用手術室を備えており、地域医療の中隔として大きな役割を担っています。そして松本歯科大学がある長野県の男女は寿命だけでなく健康寿命も全国1位であり、これは医療従事者や健康ボランティアの取り組みの成果であると県が発表しています。外来には90歳以上の患者さんが毎日来院しており、私もすでに数人を担当しております。歯科補綴学はこのような健康長寿に大きく貢献できる大変素晴らしい分野であると思えます。そしてこの健康長寿にさらに貢献できるように情報発信する体制を検討しております。

なお、こちら長野県塩尻市はワインや果物が美味しいところです。ぜひコロナ禍が落ち着きましたらぜひ見学を兼ねてお越しください。これまでご指導をいただいたすべての方にそして家族に、御礼と引き続きのご支援、ご指導をお願い申し上げます。ご挨拶の結びとさせていただきます。

大阪歯科大学



柏木 宏介

有歯補綴咬合学講座

2020 年 10 月 1 日就任

令和 2 年 10 月に、前々教授川添堯彬先生、前主任教授田中昌博先生のあとをうけて大阪歯科大学歯学部有歯補綴咬合学講座主任教授を拜命いたしました。

私は平成 4 年 3 月に大阪歯科大学を卒業、4 月に同大学大学院生（歯科補綴学専攻）として歯科補綴学第 2 講座（川添堯彬教授）に入局しました。当時の田中昌博講師のもとで生体信号の無侵襲計測（咀嚼筋筋電図）の研究に取り組みました。その後、補綴咬合治療検査の信頼性や反応性の定量に関わる研究に従事してまいりました。

近年、得られた研究結果や治療効果の評価について、単に効果の「有無」ではなく、社会にその成果を還元できるか否かの「実質的な大きさ」に焦点が当てられています。教育測定学領域で開発されたテスト理論などを応用して、これらの解釈の一助となるエビデンスを探求していきたいと考えております。就任後は、デジタル技術を応用した機能的・審美的な修復方法に関する研究に着手しています。

また当教室において従来から脈々と受け継がれてきた、三次元咬合接触、唾液、歯根膜触・圧覚閾値や咀嚼時舌運動に関する検査の確立、咬合印象法、ジルコニアを用いたテレスコープ補綴、大気圧プラズマ処理などの材料学的研究、アイトラッキング技術を応用した歯科審美に関する計量心理学的評価、そして咬合と全身状態ならびに食への嗜好の関係性に関する研究にも積極的に取り組んでいきたいと考えております。

浅学非才の身ではございますが、公益社団法人日本補綴歯科学会の更なる発展のために微力ながら貢献する所存でございます。学会員の諸先生方のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

九州大学大学院歯学研究院



鮎川 保則

口腔機能修復学講座クラウンブ

リッジ補綴学分野、インプラント・

義歯補綴学分野

2021 年 4 月 1 日就任

九州大学の鮎川保則です。4 月より九大の補綴 2 分野を担当することとなりました。どうぞ宜しくお願い致します。

私は平成 5 年に九大 2 補綴（現：インプラント・義歯補綴学分野）に入局しましたが、この教室は昭和 46 年に初代の末次恒夫教授が開設され、平成 9 年から古谷野潔教授が主宰されています。末次先生は日本に咬合論を分かりやすく紹介した方で、古谷野先生はいわずもがな、補綴の大教授に列せられる先生方から教室を引き継ぐことになり、不安感が先に立つというのが正直なところ。「三代目は身代潰す」という格言もありますが、足利義満や徳川家光のように隆盛を誇った三代目の例もありますので、師に恥じない教室作りを目指していこうと思っております。

九大の補綴は古谷野先生に引き続き私も 2 分野を併任致します。私はこれまでクラウンブリッジ教育に携わってこなかったもので、4 月からの教育に頭を悩ませておりますが、九大補綴の売りは中堅スタッフの高い熱量だと思っておりますので、総力を挙げて質の高い教育の提供を目指していく所存です。

本来でしたら学会で先生方にお会いし、ご挨拶すべきところ今年度も遠隔での開催となりました。コロナが明けて先生方にお目にかかる日を楽しみにしております。

末筆ながら、先生方および本学会の今後のご発展を祈念しつつ、微力ですが私もそれに寄与できるよう努力する所存ですので、ご指導、ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

学会HP, メルマガ, Letter for members, フェイスブックの紹介

1. 学会HP (毎週木曜日に更新) www.hotetsu.com
一般人向けのページは、「補綴」を周知するのが目的です。スマホでも見やすくなるように改修しました。情報の更新はこれからです。関係者向けは、ある程度長期にわたり必要なデータをいつでも閲覧できるようにすることが目的です。雑誌、抄録、指針などをわかりやすく配置しています。過去の学術大会HPやポスターもアーカイブ化しました。なりすまし防止によるセキュリティの向上のために常時SSL化(http → https)を行いました。英文ページは海外へのアピールです。関係部署と連携してさらに充実させます。



2. メールマガジン (隔週金曜日に全会員向けに発行)

全会員へのある程度、速報性の必要な記事を掲載します。学術大会、支部会・関連学会に関する情報です。学会HPや他へのリンクも載せています。簡潔さと内容の充実のバランスが難しいです。200号を記念して、これまでのすべてをアーカイブ化しました。

メールアドレスの変更があった場合には速やかにお知らせください。

3. Letter for members (年2回発行: 4月と10月)
学術大会・支部会・イベント、国際交流や表彰などの記録を残すのが目的です。

4月号: 支部学術大会報告(支部長), 海外の学術大会報告(国際渉外) など

10月号: 本大会報告, 受賞者紹介など
会員からの情報提供をお願いします。



支部学術大会報告

◎東北・北海道支部学術大会報告

平成30年度東北・北海道支部総会・学術大会が北海道医療大学歯学部歯学先進補綴学分野の舞田健夫を大会長として平成30年10月13日(土)、14日(日)の両日、北海道自治労会館にて開催されました。今回の学術大会の特別講演では松岡健史先生に「歯科外来で注意すべきところの閉鎖: 認知行動療法による理解と対応」、小林嗣彦先生に「接着」-なぜ着くのか、なぜ外れるのか、基本に戻る-」のテーマで講

演を行いました。本日は「補綴歯科治療における歯科医師と歯科技工士の連携」として、後藤まりえ先生には「歯科医師・歯科技工士連携による部分床義歯補綴治療」、田邊憲昌先生には「歯冠補綴のデジタルワークフローにおける歯科技工士との連携」のテーマでそれぞれの専門分野でのチーム歯科治療のポイントを解説していただきました。そして「お口の機能を保って健康長寿 - お口の機能を検査していますか? -」と題した市民フォーラムでは曾田英紀先生に、また、生涯学習セ

4. フェイスブック (随時)

速報性が求められる情報(近切のイベントなど)を中心に週に数件を発信しています。掲載希望があれば、事務局にお申し出ください。写真などもありますよいです。

ぜひ、FBの学会ページに「いいね!」「フォロー」をしていただき、周りの関係者を巻き込んでください。
<https://www.facebook.com/JapanProsthodonticSociety>

広報委員会では、複数の媒体の特性を生かして、最新の正確な情報をわかりやすく皆様にお届けします。情報提供、古い・誤った情報のご指摘、ご意見をよろしく願いいたします。

(広報委員会委員長 佐藤裕二)